

Yoko Fujita Nobuo Ooka

これから家を建てる人に伝えたいこと。

「縁」を「きずな」に。親から子へと繋がる住まい。



ゲストハウスウッドデッキにて撮影

揺るぎない「きずな」でつながる藤田家。パワフルな原動力でファミリーをまとめる藤田洋子会長(手前)を中心に家族がひとつになって和気あいあいと暮らす姿は次代に繋がっている。(後方・右から)次女・奥山ひろみさん、長男・藤田貴子さん、長女・岡田まゆみさん。

施主・藤田洋子さんのお宅から
施主と工務店。それは単に家を作るという関係だけでなく、人生の中でも特別に深いつながりが芽生える間柄。大建住宅の大岡社長にとって、大切なお客さまであり、人生の先輩、また同じ経営者どうしの目線を持つ、藤田洋子さんとは揺るぎない信頼関係を結んでいます。今回は9年前から数年をかけて手掛けた思い出深い物件でお話を伺いました。

助け合うというのが私の原点。

藤田会長 藤田家は丸亀市で電線やワイヤーハネなどを製造加工する「藤田加工有株式会社」を経営。創業者であり会長である藤田洋子さんと大建住宅は、先代大岡學氏からのお付き合い。今から9年前、700坪の本社兼工場地にゲストハウスを建築。以降、事務所や作業場として使う別棟、三世帯の住まいとして母屋となる住居棟などを2年ごとに建築。現在、会長夫妻をはじめ、社長である長男家族、長女家族、次女家族など、4世帯・総勢15人が日々の生活を共に

しています。

「住まいる」というもの

大岡社長 会長はご自身で今までに10軒近くのご自宅を建ててこられましたよね。人生の中で、その時その時に必要な形の家を作つてこられたと思いますが、そんな会長が考える住まいとは、どのようなものでしょうか？

藤田会長 結果的に家つて励みになるっていうのかな。そこでエネルギーがわいてくるというのが必要だと思います。

大岡社長 充電する場所ですよ。

藤田会長 そう。家つて安らぎの場所でもあるけど、同時に力が湧いてこない。私は仕事場の近くに家がないと落ち着かない。24時間営業(笑)。私にとって仕事とは内職的なもの。みんな家に帰って帰って家で作業をして、できたものを集めると大きなものになっている。それがやがて社会に貢献するものになっていく。そういう仕事をやっていきたいから、自分にとって家というのはとても重要なものなのです。

にして仲良く暮らしています。

大岡社長 このゲストハウスが出来た9年前にはまだスレートの工場がありましたよね。その時に会長と、次はこうして、その次はこうして、と総合的に建て替えしようという話し合いましたよね。

藤田会長 最初にここに来た方はみなさん何の建物？って、思うみたい。住宅でもない、工場でもない、でも、箱型で鉄骨の建物が2棟あって、一番奥にあるゲストハウスまで来たら、緑の中に木の建物があつて…。そんなイメージの違い

や意外性は大岡社長が狙ったのよね。

大岡社長 そうです。

藤田会長 こういう住宅を考えてくれたのも大岡社長が私の原点を知っているからだと思います。私は農繁期におじいさん、おばあさんも交えて納屋でいろいろ仕事をする、横にむすんだおにぎりとか置いてね。そういう風景を見るとうれしくなります。みんな一緒に作業して、それができた時の喜び。家族とのふれあいの中で人へのいたわり、尊敬、気遣い、やさしさが芽生え、お互いが成長できるのだと



「つながり」がキーワード。

大岡社長 今回、藤田家にお邪魔したのは理由があります。私の人生にいつも会社にとつても、今、「つながり」ということを使命感と捉えています。すべての物事をつないでいく責任が我々にはあると思います。特に、藤田家を見ると、そういう家族のつながりを大切にしているし、それが現実

ちゃんとしてきている。そんな「つながり」ということは今の時代とても大切なことだと思います。

藤田会長 「つながり」という意味では我々の仕事もそう。電線という仕事は何十年も変わってなくて、車とか機械の配線はロボットではできないんです。やっぱり人の手でない。新しい図面をもつて、ひとつひとつ繋いでいく。人間でついたら血管のようなものです。今、総勢で150人ぐらい社員がいますが、みんな自分の手で作っているからこの仕事が好きなのね。この仕事が好きだとつてくれている限り、私は仕事を続けられると思います。

大岡社長 物を作るという我々の仕事に次はどうつながるか。次世代につなげることをすべての判断基準で考えたら、今やるべきことが見えてくると思うんです。私たちは親から子へと受け継がれる家、環境に溶け込む家、家の表情を豊かにする庭といった「つながり」というキーワードにして、仕事をしています。いろいろなものをつなぐためには、まず、これをただの縁で終わらせない次の「きずな」。これからも「縁からきずな」に変わる仕事を続けていきたいと思います。藤田家の皆様とも変わらない「きずな」ですと結ばれていたいと思いますので、これからもよろしくお願ひいたします。



「会長には生き方の楽しみ、楽しく生きるそのコツみたいなものを教えてもらっている感じがします」



9年前、最初に手掛けたゲストハウス中庭のみみじ。豊かな緑に囲まれた木の住宅は藤田家にとって憩いの場所。ステンドグラスを取り入れることでモダンな空間に。



[大建住宅株式会社] 代表取締役 大岡信夫 ●一級建築士

1970年、先代・大岡學氏が大建住宅株式会社として創業・設立。1998年、大岡信夫が代表取締役に就任。創業以来42年間一貫して、住宅建築を基本に、リフォームからマンション、店舗、公共工事など、地域のニーズに合わせた建築を提供。



大建住宅株式会社
ダイケンジュウタクカブシキガイシャ

0877-28-7992

「技術と誠心(まごころ)をもって、お客様絶対主義」の基本方針のもと、地域の自然環境と共生した事業を行う地元の工務店。

学校関連などの公共事業も手掛ける大建住宅。数々の実績と地域に密着した堅実な仕事ぶりが好評で、ほとんどの施主さんが紹介というも納得。社長をはじめ、現場に携わる従業員は地元に住む一級・二級建築士ばかりなので、その安心感も大建住宅を家づくりのパートナーに選ぶ理由の一つと言える。

大建住宅は「家は施主の人となりを表わす」という考えのもと、周囲への配慮を含め地域・環境に合った家づくりを行っているのが特徴。景観との調和をはかり、そこで暮らしていく家族の将来的なビジョンまでを考察して、施主の想いや夢を具現化していく。そこには、景観に溶け込む家、家の表情を豊かにする庭、親から子へと受け継がれる家、といった「つながり」というキーワードが欠かせないもの。スタッフ全員が一丸となって、施主の想いに寄り添った家づくりを提供してくれる。



1. やわらかな色調でまとめられ、杉の構造材の力強さが印象的なリビング。中庭からのやさしい光が風とともに入り込んで、温かな雰囲気を醸し出しています。
2. 玄関脇には瓦を使って瀬戸内の海をテーマにした遊び心ある模様を。
3. 民家風のお店を思わせるゲストルーム。気の合う仲間と囲炉裏を囲めば、思わず時間が経つのを忘れそう。
4. シンメトリーに設計された洋室は将来2部屋の子ども部屋になります。

「つながり」を大切に。 地域・環境に根差した家づくり。

工法 木造 2x4 RC 鉄骨 プレハブ その他 取扱 注文住宅 規格住宅 分譲住宅 店舗 リフォーム その他 施工エリア 東讃 高松 中讃 西讃 平均坪単価 40万~80万円

大建住宅株式会社

ダイケンジュウタクカブシキガイシャ

☎0877-28-7992

http://www.daikenjutaku.co.jp

建設業許可番号 / 香川県知事許可(特-22)第740号

宅地建物取引業者免許証番号 / 香川県知事(10)第2113号

建築士事務所登録番号 / 一級建築士事務所香川県知事登録第627号

> information

未来(あす)の夢を技術と誠心(まごころ)で築く。

“技術と誠心(まごころ)をもって、お客様絶対主義”の基本方針のもと、地域の自然環境と共生した事業を行う地元の工務店。



●問い合わせ
丸亀市郡家町1032-1
☎8時~17時
休日曜・祝日
P10台

担当者から ひと言

「家はお客さまのものであり、お客さまの代わりに建てさせていただいている」との想いで、技術と誠心(まごころ)を持って家づくりに取り組んでいます。」



代表取締役・一級建築士 / 大岡 信夫さん



存在感のあるモダンテイストの外観。アプローチや植栽などのエクステリアもベストマッチ。



LDKの上に設計したブリッジが、家族をひとつにつないでくれる。



落ち着いたブラウンでまとめられたLDKは広々とした吹き抜けが印象的。



Point!

家事のしやすさにも配慮!

寝室の南側に設計した洗濯物干し場。室内は外壁用の壁とコンクリートの床だから、掃除もしやすく機能的。これなら来客の視線も気にならず、突然の雨に慌てることもなし!

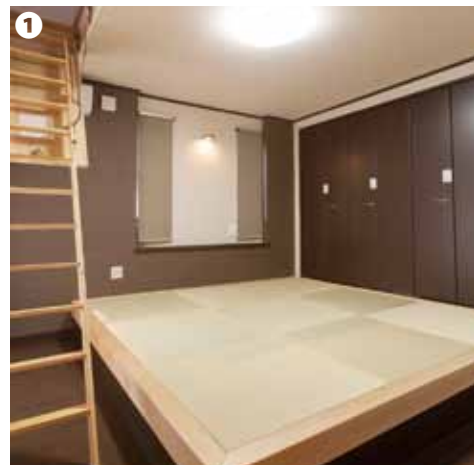


外と内をつなぐ設計の妙。 憩いとやすらぎの平屋の家。

敷地条件を生かした平屋の住まいは暮らす人に心地よく、地域の環境になじんだ景観を生みだしました。

丸亀で
建てた家

丸亀市
Yファミリー



①ベッドではなく布団派というYさん。畳の下には引き出し式の収納スペースを確保。はしごを上がれば13帖もの隠れ家がある。

②屋根勾配を生かした天井が開放感を演出。

③奥さまがこだわったキッチンからの眺め。リビングダイニングを一望できる。

④昨年設置した巨大な太陽光パネルは、建築当初から計画していたもの。屋根の向きや角度も計画的に設計。

⑤目隠しにもなるデッキの塀は布団を干すときにも便利。



◎玄関は家の第一印象。明るく開放的に窓をとることで広がり演出する仕組みはさすが。坪庭の緑がさわやか。

Yファミリーの 家づくりこだわりDATA

家族構成 夫婦+子ども2人+猫1匹

竣工 2009年1月

構造 木造軸組工法

延床面積 149.36㎡(45.18坪)

こだわったポイント?

門、塀、車庫、庭までを含んだトータルでの家づくり

設計・施工/大建住宅株式会社

☎0877-28-7992

<http://www.daikenjutaku.co.jp>



主家、門、塀、車庫、庭のすべてがバランスよく配置された外観。南側に広がる庭では子どもたちが三輪車に乗ったり、サッカーをしたり。塀に囲まれているので、子どもたちにも安心。「今は子どもたちの安全な遊び場になっていますが、将来的には庭をつくり、緑を増やしてさらに平屋生活を満喫したいですね」。

悠々と大空を仰ぐような平屋の家は、優雅さとともに「つながり」を感じられる家。もともと2階建ての家を考えていたというYさんご夫婦は、大建住宅の社長から敷地条件を生かした平屋建てを提案され、考えが変わっていったのだとか。「友人の家に行けば、たいていは1階にLDK、2階に寝室・子ども部屋という間取り。こだわりというよりは、家のイメージがそういった形と思い込んでいました」とご主人。その点Y邸は、子育て世代の家族にとって安心して快適な間取りを実現できた住まい。家族やお客さまが集うパブリックスペースと、寝室や子ども部屋などのプライベート空間を分けつつ、平面ならではの無駄のない動線を作り出している。さらにリビングやダイニングからは、ご主人たごとの希望だった庭を眺めることもできる。

庭と室内、部屋と部屋、家と景観、そして親から子どもたちへ…。それらをつなぎ、トータルでコーディネートすることが、本来の環境にあった快適な家なのだ、Y邸が教えてくれているみたい。